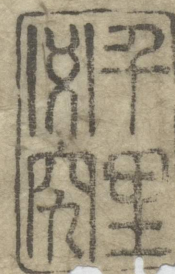




天保七申八月  
天保七申八月  
文政十申年  
文化六辛酉年  
天和九年  
天明七年



百家通用直指便蒙

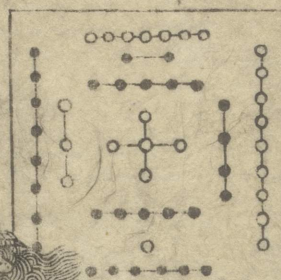


新撰  
訂正  
筆法稽古圖會

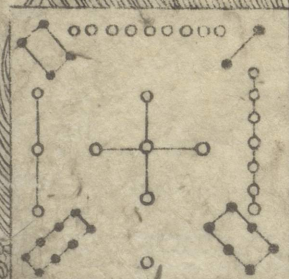
浪華

耕耘堂  
至淵堂  
石倉堂  
合梓

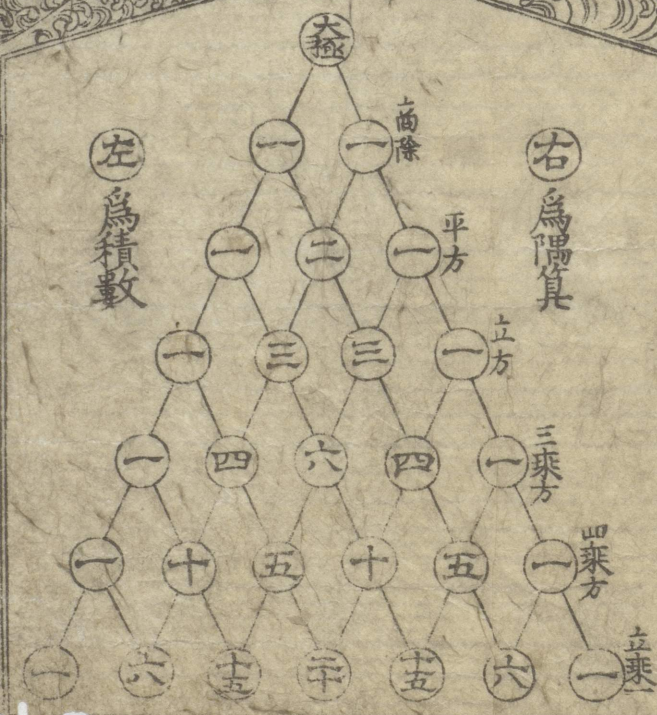
河圖



洛書



開方求廉圖





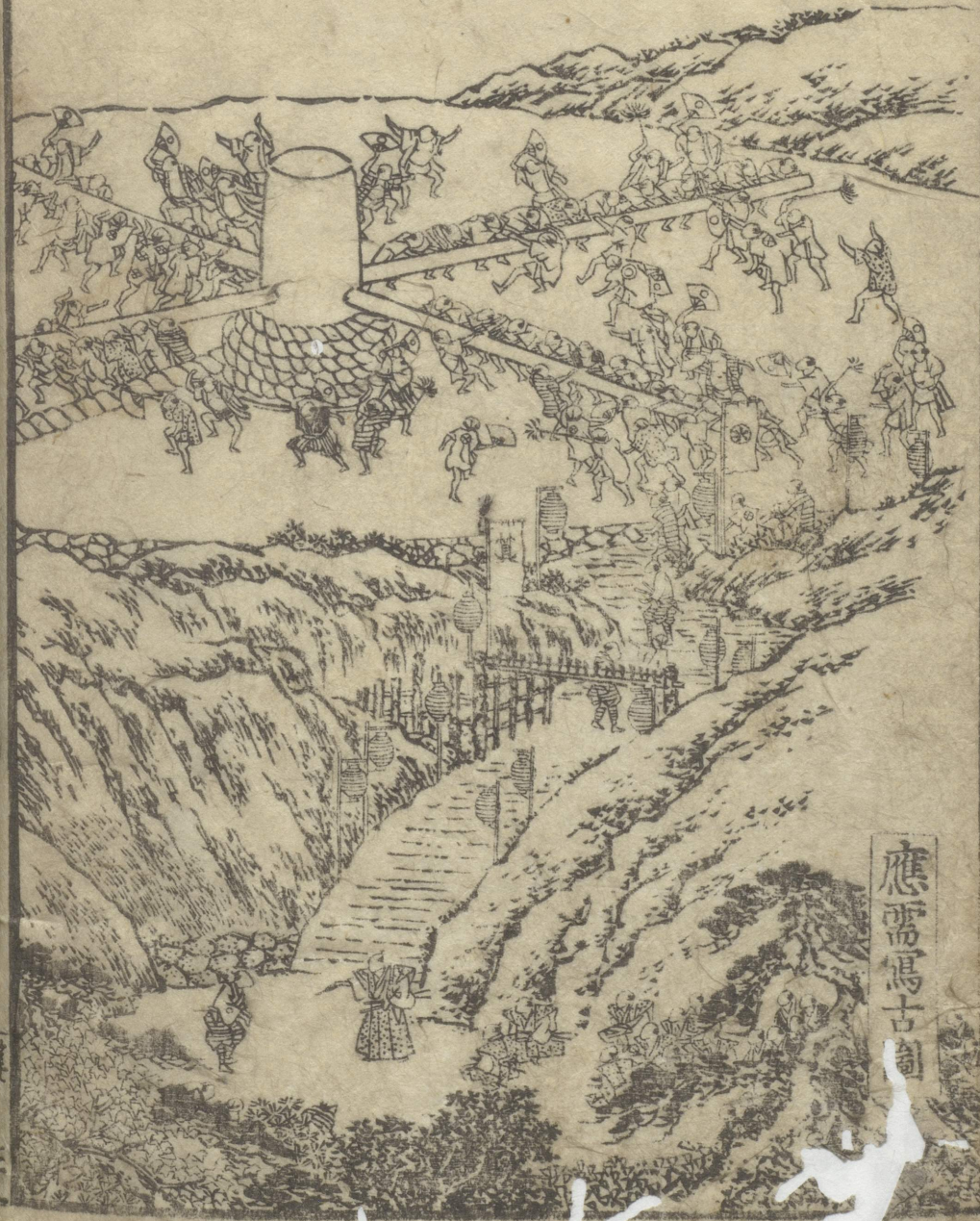
○算法舊古圖會目錄

河圖洛書之圖  
西行銀楯と重小の圖  
大數小數の名  
田數之名  
推丈とよと見る圖  
大佛の堂小を合算  
漁丈魚と合算  
繪小箔と置積り算  
柴薪賣買損徳算  
鳥算の術  
角算坪積の算  
三角算積り算  
開方求算之圖  
百萬野の人数と算  
金銀銭の數量  
田舎往還の圖  
裁尺之丈  
大佛達と積書  
漁丈會合の圖  
紋小箔と置積り算  
黒本賣之圖  
甲乙と小箔と算  
蛇算積算同圖  
四角の算積り算  
轆轤小と巨扶と尺圖  
燕張飛の圖  
繪布之數  
よ本積りの法  
程と挑裁採心得  
大佛殿之圖  
布一端と系筋と算  
柴薪東廻一算  
柱小箔と置積り算  
川算積之算同圖  
堤坪數積り算同圖  
町積りの法同圖

海中の島の廣と積り法  
町見積りの術同圖  
道中人足の刻算  
八算の刻声  
算法用字大標  
同田舎の圖  
儀格とえ圖解  
見一の圖解  
屏風小箔並積り算  
武と刻る算の法  
銭西替の算同圖  
鼠算の法同圖  
家根枝積り算同圖  
油計り分る算  
道中荷物と運ぶ圖  
駕籠乗刻算同圖  
初學心得の圖解  
八算の圖解  
毛見免相究の算  
長家の下小儀と積算  
藏小儀入る算同圖  
二枚折六枚屏風小の圖  
刻り掛る算の法  
端色竹目大畧  
猪物輕重之積り附  
同坪數積り算同圖  
竹廻賣買の算  
九九之數  
倍廻一算同圖  
刻裁の心得  
知行物成の算  
藥師算同圖  
儀積上の圖  
儀廻一の算  
二間四面の外小箔並算  
象の重さを知る圖解  
金銀兩替の算同圖  
銭相場刻附



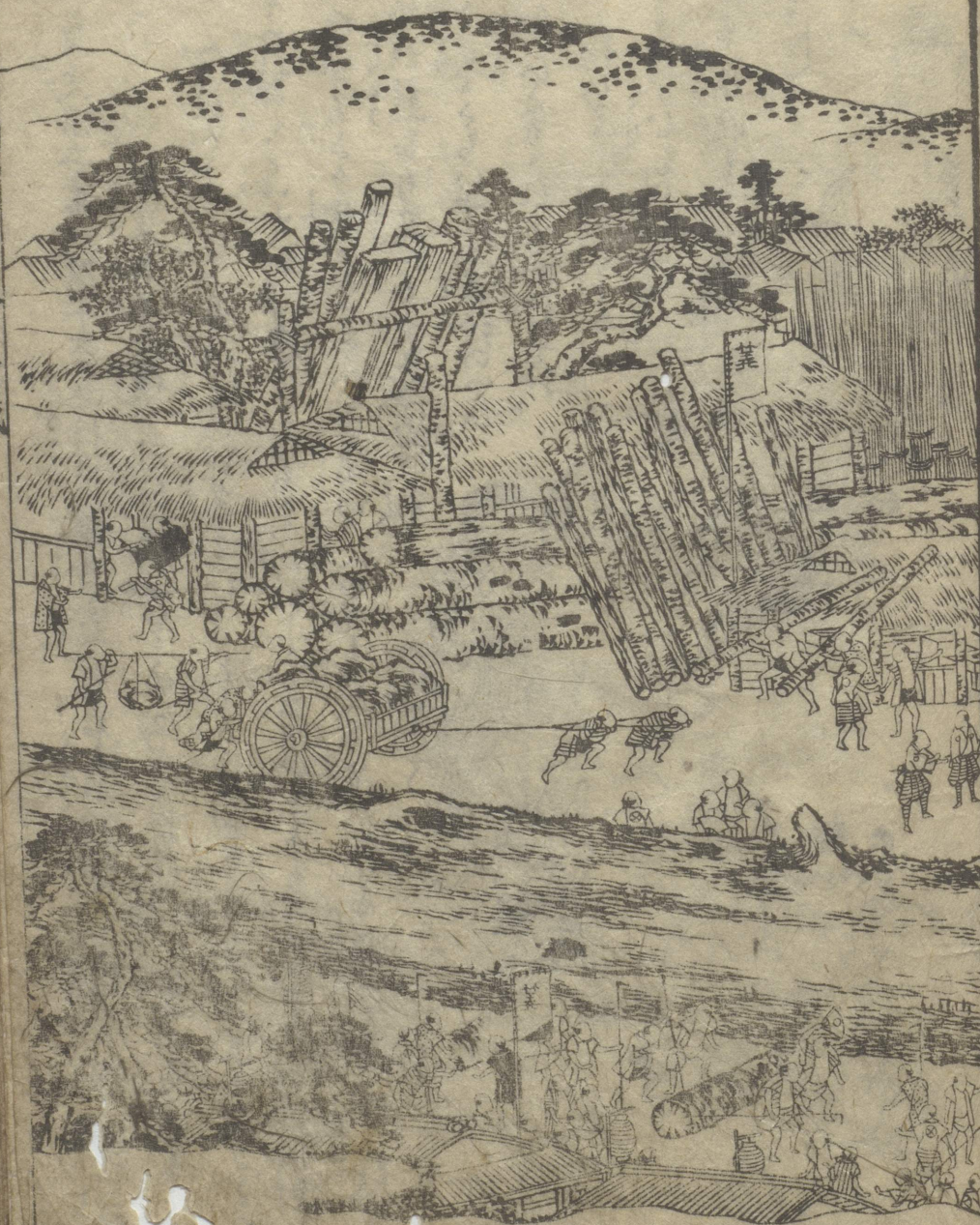
輓轡をもちて巨木を曳く図



應需馬古圖









〇往昔文治二年八月十六日西行上人鎌倉におのそ右大將頼朝より銀をてねし程と拜  
 儀せられが西行唐来名譽の僧あれば銀の桶とそのうきもあつて内外ふ盛ひあつて兒童  
 たちと人々にわくとるより傍辺の兒童それもとよりわたりわたり盛ひあつて正とてあつた  
 小あやうれよくといせかば遠くもうちう西行上人も着ひゆさうり小兒等と教つた既  
 三十人わたりわさう然る小すゑ人の由緒つる人の見とえへく擡ては歩短刀と幸して待  
 つかう形勢あり又ちと十五人の重  
 とてへく其のちい中く言終のつひ  
 はも鄙びさうされども西行上人  
 半銭と擡ひて  
 ちあつといふんあがど  
 ちやとちや候也も  
 和いきもささる  
 小あやうれ  
 三々



西行上人

かんの  
いよ  
あぶくそ  
よみちめ  
二十のあとのけ  
おろくありて人  
たれんものけとす  
二つりしに迎ふふ  
くまのけられが終つた九人退  
しうじは鐘の音であらう  
かくしくもこれの意を銀  
わのとつとつとつとつと

西行上人









# 大數之名

一十百千萬億  
千億億億

兆兆兆  
兆兆兆  
京京京  
京京京

穰穰穰  
穰穰穰  
溝溝溝  
溝溝溝

澗澗澗  
澗澗澗  
正正正  
正正正  
載載載  
載載載

極極極  
極極極  
恒河沙  
恒河沙  
恒河沙  
恒河沙

阿僧祇  
阿僧祇  
那由他  
那由他  
那由他  
那由他

不可思議  
不可思議  
不可思議  
不可思議

無量無量  
無量無量  
大數  
大數  
大數  
大數

# 田數之名

一町  
但六十方丈一町  
或六十方丈一町

一畝  
三十步一畝  
三十步一畝

一分  
長六尺五寸  
廣六尺五寸

一毫  
長六寸五分  
廣六寸五分

一忽  
長六分  
廣六分

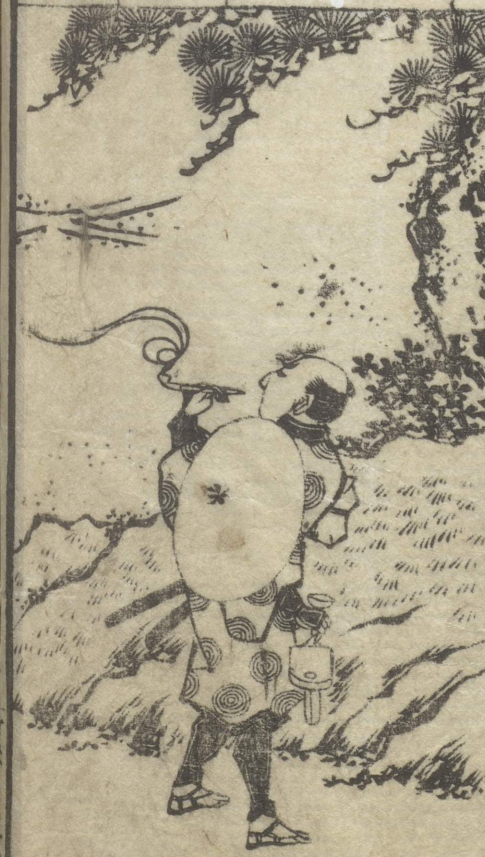
一反  
一百六十坪  
一百六十坪

一步  
一坪  
一坪

一厘  
長六寸五分  
廣六寸五分

一絲  
長六分  
廣六分

一微  
長六分  
廣六分



# 小數之名

兩文分厘毫絲

忽微纖沙塵埃

金之數兩步朱字

銀之數纖沙塵埃

錢之數文十文百文一貫文

糧之數斛斗升合勺

絹布數匹端丈尺寸

分厘毫絲忽





○五本の間を積る法

雄丈山賊あやの五本とほく屋を  
かくはぐまとはうへ肉股より本乃  
とこの足ゆるやうなやでよりつまらう

して本の末はやくと  
その隙より隙に定ま  
ねその隙へるものより  
本は板とのちの間の  
おへえればおへるもの  
間ほど本のちのちのち  
これを人の目と地と付て  
本とくまを△角と  
足はより本とおへて  
うへつゝエスなり



○裁尺之車

呉服尺五股と  
一版と  
是周尺の例おふ

曲尺一尺二寸  
同く曲を

鯨尺四股一版

曲尺一尺二寸  
番通の

曲尺一尺二寸  
尺あり

先商尺の骨造  
尺は合せ  
なり



○又法は

紙と四角  
をりて又角とく折

下の角へいとせり右と  
まわりつけ

てくさげなりと  
下の角より上の角を

又とゆいて本の末と  
さあそ及紙の

本の板そののちのち  
とくち七つられ

おとえけとまると入る七  
おとえけとまると入る七





程々純裁やうの心得

程々純

三丈二寸

此の程々純裁は三丈二寸の  
みだを先と四角のふたつ  
細くならくづきて  
ふたつを時同くふけて四角  
ならぬと程々純裁なり



○大佛の堂小宋を入る筈  
南都東大寺の大佛の堂は宋と云ふ時へ何程入るに  
七萬七千五百石なり

周云

朝野群載曰 殿の高十丈六尺東西二十九丈南北

十七丈基砌の高七尺東西三十二丈七尺南北三丈六尺

内陣の柱九十六本天坪三千二百二十益云

本尊盧舍那佛座像御像 五丈三尺四寸

面の長さ一丈六尺廣九尺

目の長さ三尺九寸

鼻の口二丈一尺

腰の長さ五尺六寸

膝の厚さ七尺

膝の前の徑一丈三寸

足の裏を丈三尺

耳の長さ八尺五寸

肩の徑二丈八尺七寸

肘より腕まで一丈九尺

中指長さ五尺

聖武帝

天平勝室

元年の

佛建立

其後再

再興

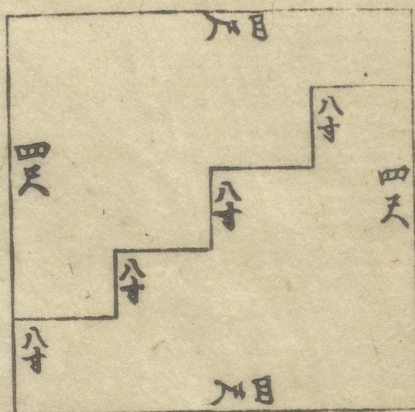
年間の

元録

今佛殿

無火か

なり



四方  
四丈  
八寸

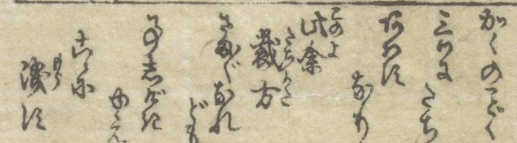
四丈

又此の四丈  
四方は  
一丈と云ふ  
はさりぬ  
まゝに



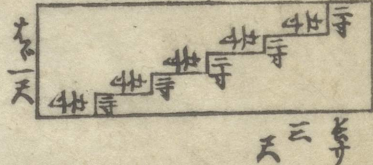


三寸

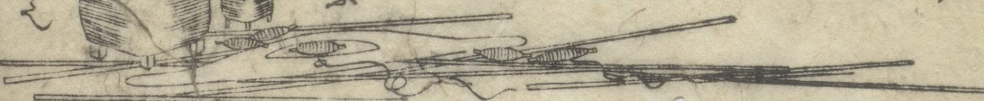


○漁丈魚と云ふ集  
 ちる人夜中ふ満辺と通じが漢師お  
 漢の磯をふりて夜中ふの魚と云ふ  
 てふえかべとてそく其あふとてさくは  
 二本りする十本づとられは八本づとめと  
 いそり毛とほろ漁師何人鯨は本  
 ちるといふと知る法なり  
 漢師又人鯨四十二本と  
 法と曰ちする二本とたぬ八本とと云ふ  
 十本と次又別ふとけくらぬ十本の肉を  
 たぬとらふ八本と引く鯨二本と此二本を  
 是の十本とすれば五と次は漢師又人のうぐ  
 将人ふ十本とけくらぬ八本と次は肉を八本引く  
 四十二本と此は別ち鯨のうぐ四十本と云ふなり

去天一寸



ぬめつん  
○布一端のたてぬえの糸と  
一ふたつぎのぬりて道法  
何程ゆとりよ  
三里六丁四二番式ふす  
これに九つ入る布ぬの  
たけの糸願うぬ  
二丈八寸を一天ひとの  
ぬりばじりをすの  
ぬはぬすをどぐのほりて



○又次の漁師小家も人びへて魚ととろてゐるなり  
 八丈やちやうぐとろれば七丈とて七丈ぐとろれば八丈ちやうとて  
 是も又ちやう八丈とたろぬ七丈と  
 ちのせと十丈と敷又別べつは  
 七丈口の八丈とて七丈なな引  
 筋すぢ一丈とて右の十丈と  
 されば漁師十丈と  
 まろちやう  
 叔母おとこ十丈人  
 七丈口の八丈と  
 ちのせと十丈と敷  
 ちのせとたろぬとろ  
 八丈と引ば百十三丈と敷敷  
 漁師十丈人  
 魚うしのろ 百十三丈とあるなり





○狛小箔と並積り

ふぬ一及ふ地

うろこの箔と

そく時竹細

入むこの箔の

たけ長服さう

二丈八丈と一丈三寸

普へく三寸箔

三百十五枚九分三厘

右の箔二丈八丈三寸

うけてかひさう

三丈五尺とある又

うの曲一丈六寸三

三丈五尺とある

右の二丈とある

のうの枚は大小

はまの枚は大小

うろこの箔と

三寸箔とある

三百十五枚九分

右の箔二丈八丈

のうの枚は大小

はまの枚は大小

うろこの箔と

三寸箔とある

三百十五枚九分

右の箔二丈八丈

のうの枚は大小

はまの枚は大小



○柴薪束はじり賣買の損徳とある

柴二天束すのしり三

何束ふりさうと

右の二天束と

三百六十束と

又別小三束と

ふりて右の二

○是と又三束

ぐの束は小

何束ふりさう

右の二束と

又十束ふり

又別小三束

それ小四十束

右の二束と

又十束ふり

又別小三束

それ小四十束

右の二束と

又十束ふり

又別小三束

それ小四十束

右の二束と

又十束ふり

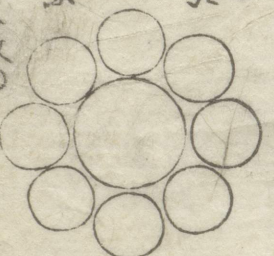
又別小三束

それ小四十束

右の二束と

又十束ふり

又別小三束













此は八は素法の七の七とかうし坪数

三坪七の九の二もとありなり

○は三角の二もとありなり

一坪を八の二

法は八の二

八の二の二

九の二の二

十の二の二

十一の二の二

十二の二の二

十三の二の二

十四の二の二

十五の二の二

十六の二の二

十七の二の二

十八の二の二

十九の二の二

二十の二の二

二十一の二の二

二十二の二の二

二十三の二の二

二十四の二の二

二十五の二の二

二十六の二の二

二十七の二の二

二十八の二の二

二十九の二の二

三十の二の二

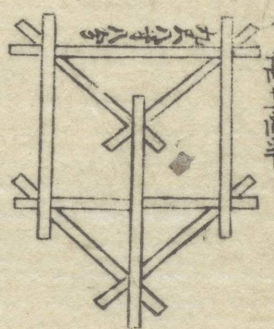
三十一の二の二

三十二の二の二

三十三の二の二

三十四の二の二

三十五の二の二



高さ四半



人のひきあがり

町数と積る法

向かふまゝ積る人の本を

遠さ何程なりかゝ内を

なるべし三十四十七万二尺七寸

四ふりし四四のりと算す

是とほりの法は

系とつけてはふふとくふとひうの人のふけとるる

かひつてハリとふふとくふとひうの人のふけとるる

これとて人のたけふ尺とふれば武百八十三三三とある

此三三三三三三とくけて武百八十三三三とある

武百八十三三三とくけて武百八十三三三とある

三十四十七万二尺七寸四ふりし四四のりと算す

同町数なり向ふふとくふとひうの人のふけとるる

一りとはふふとくふとひうの人のふけとるる

二りとはふふとくふとひうの人のふけとるる

三りとはふふとくふとひうの人のふけとるる

四りとはふふとくふとひうの人のふけとるる

五りとはふふとくふとひうの人のふけとるる

六りとはふふとくふとひうの人のふけとるる

七りとはふふとくふとひうの人のふけとるる

八りとはふふとくふとひうの人のふけとるる

九りとはふふとくふとひうの人のふけとるる

十りとはふふとくふとひうの人のふけとるる

十一りとはふふとくふとひうの人のふけとるる

十二りとはふふとくふとひうの人のふけとるる

十三りとはふふとくふとひうの人のふけとるる

十四りとはふふとくふとひうの人のふけとるる

十五りとはふふとくふとひうの人のふけとるる

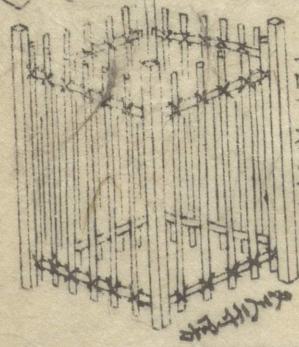
十六りとはふふとくふとひうの人のふけとるる

十七りとはふふとくふとひうの人のふけとるる

十八りとはふふとくふとひうの人のふけとるる

十九りとはふふとくふとひうの人のふけとるる

二十りとはふふとくふとひうの人のふけとるる



高さ九尺七寸五分

二二二三三三

二二二三三三

二二二三三三

二二二三三三

二二二三三三

二二二三三三

二二二三三三

二二二三三三







乃々た何ぞも立撲むた物ほど  
 とうとう  
 とうとう  
 又う程まゝあ合はした  
 あつて  
 間もなき程塵毛のりみ足へさき  
 ちやうど是へ初め様う振ちりすこ  
 ちやうど  
 向いふ丈夫のあれさ物と自付は  
 てはりてはあふうあぬてもち  
 ちやうど  
 べつ但さく本と目つけちてつりて

○町見

積つみの法ほう

是よりびふ

村やとて遠さあり

ほとつと聞え

十二所  
四十九

一夫ぬすむるより

術又長廿四尺を二天

の板とていふは先きの

角よりさだの角むい

のなほ根と目つひあしと

三十一と二と三と四と

一方々の角小かきとく

少くも此の角右の目付可

いふもろくわたり合ふ時

あけうゝてけいひ一厘六毛

又、時これと扱は

子  
 四  
 天  
 又  
 三  
 ね  
 ぶ

日本天皇

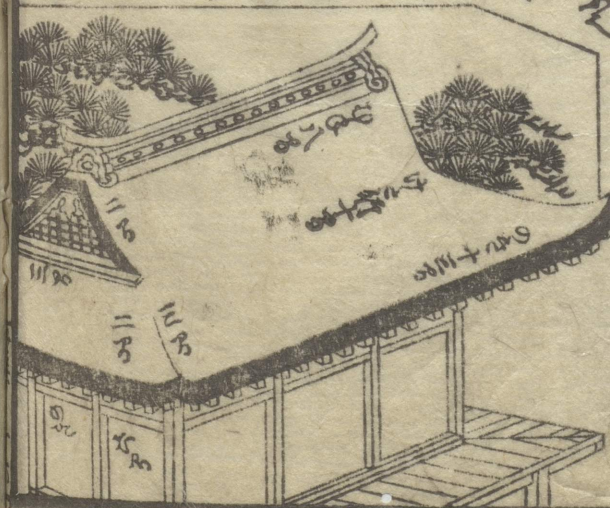
わしに授け

二五七九

又百史と云ふ



又六天又すとふたりのす  
 又方とてふれば十二牧ニ  
 三りと三毛ニ系あつて  
 これとわの廿二牧六方なり  
 六毛六系とわれば九百廿八牧  
 八毛ハリ反毛ニ系と係是ハ  
 二坪の板つて是と六十坪  
 二坪の板つて是と六十坪  
 二坪の板つて是と六十坪



○右又馬よりやねのつぼぐはね種あつとつふ

軒のついでと志家のあつさ角のけう長さ三寸半此坪の

百五十坪に及ぶ。但し軒の下の土を志保の町にさし

長サ一尺小指と一坪とふ又角のちうをいふ

二間と一坪といふ若も同あへん棟八万又けの松十万といふ

くは十八万とぬこれと二つは 割る九万とぬこれと貳万と

かくれ十八坪と又折り指間又斬十三間と如二十

三万つりきと二つふれば十一万とぬき又三万とぬき

世に呼ばれ又六男三男より九男小成と云ふなり

四万二千三百三十三坪と云ふ所の三ヶ所

六十坪より是と兩方の色ゆく百廿二坪より又京

廻り三十八間、四寸と云ふ、凡十五坪二方、又両邊に

十六箇小二寸とせられぬ三十三箇に分ち又三箇を置けり

[illegible]















たふべこのもい下ゆきる二の應ゆる方并

十二萬三千四百零六石七斗八升九合

とゞ二つゆりて六万七千七百八石三

斗九妹に合ス々とあうゝるあるんば

つげき六二とて掛るゝぬれ倍

ふくろの足故<sup>ゆ</sup>は右の終<sup>ま</sup>りの取<sup>と</sup>りかけ

ふとひるふとたの目あはれごとを見

ちとせと二五の十とひて九は九を

うけのちえんとくをそつぎにむかう

これも倍ふたはあうと海へ二四の八と云

く四をいふひやハとくまふあう

とつらばはとつらば

ありけり二匹の八とうけり八泥の四進

とてハとて四つとてあり二五と

あまのこ

拾二萬三千四百零六石七斗八升九合

一、刻人と思ふ

八沉四進。○二天能五  
八沉四進。二沉一進と申すなり。と云ふ  
六沉三進。○二天能五  
二沉一進。○二天能一進。○二沉一進  
二沉一進。○二沉一進。○二天能五  
二沉一進。○二沉一進  
二沉一進。○二天能五  
二沉一進。と云ふ二を引く上、一をちぎる  
二天能五と云ふ二をのみするあり  
なりと云ふ

三つちんち

のきごとあつち法いんぎえ

ぞく月あふふは二を八あつやてとへとつとにえ

...

六万七千七百八石三斗九升四合五勺

かゝる又た  
ひため

二五十一  
ふふふをふつふ

二四八  
とろろとろろ

二九十八 とうきゅうとすまふ

二三六 一のちをうすく

二八十六 とうとう八をすゝつゝ

二二四  
よるき二をてふ

二三四  
一ノ三ノ四ノ五

二十四

二二 上ノ二と云ふ爲人

三十二  
十二

五  
為  
聖  
王

○是國安之此二刀乃古世已無

十といふところへ二天竺五と十と  
ニツ<sup>あ</sup>より五<sup>い</sup>よりとあるあり余<sup>よ</sup>い  
これは<sup>ふん</sup>確してあるべしづれども  
かゝるところ——

○筭法用字

帛き  
除ぢよ  
二字とも小刻みえ

因乗いんじやう  
二乗にじやうともとも小うこけけるるここゑゑゐゐるる  
邦はうありあり

三文字とも小をうまんの  
ふとくんで教ふる事と云

○をきくは

保

折半  
二五

二五十九	とつふく五を二はつろん
二四八	とつふく四を二はつろん ↑ハを二はつろん
二九十八	とつふく九を十はつろん ↑ハを二はつろん
二二六	とつふく二を二はつろん ↑ハを二はつろん
二八十六	とつふく八を十はつろん ↑ハを二はつろん
二二四	とつふく二を二はつろん ↑ハを二はつろん
二七十四	とつふく七を十はつろん ↑ハを二はつろん
一二二	とつふく二を二はつろん ↑ハを二はつろん
二六十二	とつふく六を十はつろん ↑ハを二はつろん

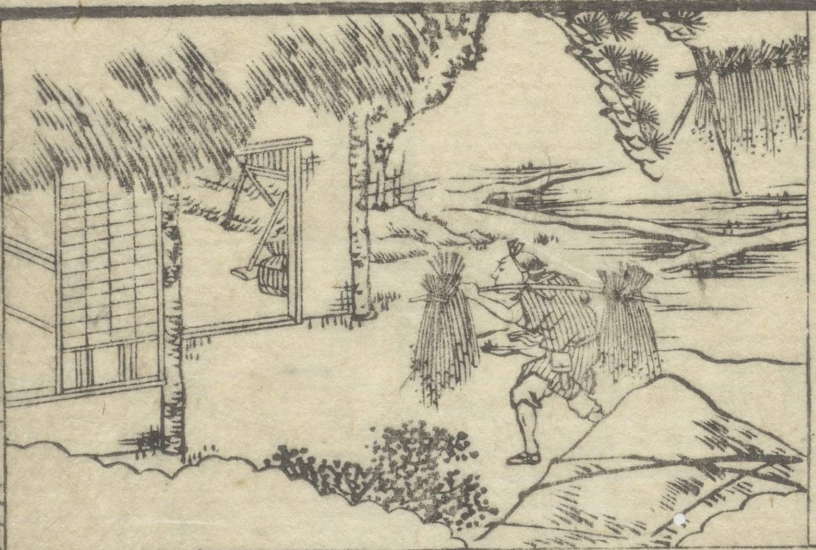


知行物

○田地二及七畝なりと尺斗代を及  
 小つきを石五斗小して右の量何  
 程との量へたる四石五斗とのふ  
 是へせん二及七畝と右小増を斗  
 又斗を加ればなるありあり  
 ○九及三畝止一歩なりと尺一及二つ尺  
 を石五斗代して量何程とのふ  
 是十四石五斗又合とのふ  
 是へせん九及三畝止一歩と右を尺  
 止一歩と三小と割れば九及三畝七と  
 あり是を石五斗と加れば右の物  
 ありあるは三斗五斗と割て七とをへ  
 一畝半歩のより更三斗でつるく  
 ○是三万五千式百石なりと右は物あり  
 六万九千と右の量何程とく

二万二千八百八十石ありと云

是右小三万又千貳百石と惣とて  
是と六つ五分と加ふれば物ありきとて



三之順

ありといへば

攝二万三千四百五十六石七斗八升九合七

三つはつとんとあつた

[illegible]

二万小割ハ 四万千百五拾二石二斗六升三合

卷之六

二ヶふめ

[illegible]

目安

ふりやうのう



電気通信大学附属図書館



あゝ割<sup>れ</sup>ばあゝあゝ

○本米に米<sup>ま</sup>をまゝも

二万四千七百十石四斗<sup>あ</sup>つと

は内<sup>うち</sup>に米<sup>こめ</sup>をまゝあゝ何<sup>なん</sup>れぞと

米<sup>こめ</sup>合<sup>あ</sup>千八百三十石四斗<sup>あ</sup>

是<sup>こ</sup>の米<sup>こめ</sup>に二石八斗とをたれと

八斗とをたれと三斗とをたれと

右<sup>みぎ</sup>のまゝとるべし

○二万四千七百十石四斗<sup>あ</sup>つと

は内<sup>うち</sup>に何<sup>なん</sup>れぞと

米<sup>こめ</sup>合<sup>あ</sup>千八百三十石四斗<sup>あ</sup>

是<sup>こ</sup>の米<sup>こめ</sup>に二石八斗とをたれと

八斗とをたれと三斗とをたれと

右<sup>みぎ</sup>のまゝとるべし

○二万四千七百十石四斗<sup>あ</sup>つと

は内<sup>うち</sup>に何<sup>なん</sup>れぞと

米<sup>こめ</sup>合<sup>あ</sup>千八百三十石四斗<sup>あ</sup>

是<sup>こ</sup>の米<sup>こめ</sup>に二石八斗とをたれと

八斗とをたれと三斗とをたれと

右<sup>みぎ</sup>のまゝとるべし

○二万四千七百十石四斗<sup>あ</sup>つと

は内<sup>うち</sup>に何<sup>なん</sup>れぞと

米<sup>こめ</sup>合<sup>あ</sup>千八百三十石四斗<sup>あ</sup>

是<sup>こ</sup>の米<sup>こめ</sup>に二石八斗とをたれと

八斗とをたれと三斗とをたれと

右<sup>みぎ</sup>のまゝとるべし

○二万四千七百十石四斗<sup>あ</sup>つと

は内<sup>うち</sup>に何<sup>なん</sup>れぞと

米<sup>こめ</sup>合<sup>あ</sup>千八百三十石四斗<sup>あ</sup>

是<sup>こ</sup>の米<sup>こめ</sup>に二石八斗とをたれと

八斗とをたれと三斗とをたれと

右<sup>みぎ</sup>のまゝとるべし

○二万四千七百十石四斗<sup>あ</sup>つと

五之版

あゝあゝ

指<sup>さ</sup>二万三千四百八十六石七斗八升九合

又<sup>また</sup>二万三千四百八十六石七斗八升九合

五<sup>ご</sup>一<sup>いち</sup>進<sup>しん</sup> 五<sup>ご</sup>四<sup>し</sup>倍<sup>ばい</sup>倍<sup>ばい</sup>八<sup>はち</sup>

五<sup>ご</sup>三<sup>さん</sup>倍<sup>ばい</sup>倍<sup>ばい</sup>六<sup>りく</sup>

五<sup>ご</sup>二<sup>に</sup>倍<sup>ばい</sup>倍<sup>ばい</sup>四<sup>し</sup>

五<sup>ご</sup>一<sup>いち</sup>倍<sup>ばい</sup>倍<sup>ばい</sup>二<sup>に</sup>

五<sup>ご</sup>一<sup>いち</sup>進<sup>しん</sup> 五<sup>ご</sup>一<sup>いち</sup>倍<sup>ばい</sup>倍<sup>ばい</sup>二<sup>に</sup>

五<sup>ご</sup>四<sup>し</sup>倍<sup>ばい</sup>倍<sup>ばい</sup>八<sup>はち</sup>

五<sup>ご</sup>三<sup>さん</sup>倍<sup>ばい</sup>倍<sup>ばい</sup>六<sup>りく</sup>

五<sup>ご</sup>二<sup>に</sup>倍<sup>ばい</sup>倍<sup>ばい</sup>四<sup>し</sup>

五<sup>ご</sup>一<sup>いち</sup>倍<sup>ばい</sup>倍<sup>ばい</sup>二<sup>に</sup>

五<sup>ご</sup>一<sup>いち</sup>進<sup>しん</sup> 五<sup>ご</sup>一<sup>いち</sup>倍<sup>ばい</sup>倍<sup>ばい</sup>二<sup>に</sup>

五<sup>ご</sup>一<sup>いち</sup>進<sup>しん</sup> 五<sup>ご</sup>一<sup>いち</sup>倍<sup>ばい</sup>倍<sup>ばい</sup>二<sup>に</sup>

又<sup>また</sup>二<sup>に</sup>割<sup>わ</sup>バ 貳<sup>に</sup>万<sup>まん</sup>四<sup>し</sup>千<sup>せん</sup>六<sup>りく</sup>百<sup>ひゃく</sup>九<sup>きゅう</sup>拾<sup>しゅう</sup>五<sup>ご</sup>石<sup>いし</sup>二<sup>に</sup>斗<sup>と</sup>又<sup>また</sup>斗<sup>と</sup>

七<sup>しち</sup>合<sup>ごう</sup>八<sup>はち</sup>斗<sup>と</sup>又<sup>また</sup>斗<sup>と</sup>

目<sup>め</sup>安<sup>あん</sup>

五<sup>ご</sup>八<sup>はち</sup>斗<sup>と</sup>

五<sup>ご</sup>七<sup>しち</sup>斗<sup>と</sup>

五<sup>ご</sup>六<sup>りく</sup>斗<sup>と</sup>

五<sup>ご</sup>五<sup>ご</sup>斗<sup>と</sup>

五<sup>ご</sup>四<sup>し</sup>斗<sup>と</sup>

五<sup>ご</sup>三<sup>さん</sup>斗<sup>と</sup>

五<sup>ご</sup>二<sup>に</sup>斗<sup>と</sup>

五<sup>ご</sup>一<sup>いち</sup>斗<sup>と</sup>

五<sup>ご</sup>斗<sup>と</sup>

目<sup>め</sup>安<sup>あん</sup>



新刊 日本書紀 卷之四 大和天皇

○米米千三百七十二石八斗五升この  
本米の何種なりと云

本米二万二千八百八十石ありと云

是ハ右ノ千三百七十二石八斗と云

六斗と云刻ハ本米ありと云

○米米百八十七石六斗ありと云

本米ハ右ノ百と云

本米二万二千八百八十石ありと云

是ハ右ノ四百八十七石六斗と云

二斗ありと云本米ありと云

○米米百八十七石六斗ありと云

本米ハ右ノ百と云

本米二万二千八百八十石ありと云

是ハ右ノ千八百三十石六斗と云

八斗ありと云

○米米百八十七石六斗ありと云

本米ハ右ノ百と云

本米二万二千八百八十石ありと云

是ハ右ノ千八百三十石六斗と云

八斗ありと云

○米米百八十七石六斗ありと云

本米ハ右ノ百と云

本米二万二千八百八十石ありと云

是ハ右ノ千八百三十石六斗と云

八斗ありと云

○米米百八十七石六斗ありと云

本米ハ右ノ百と云

本米二万二千八百八十石ありと云

六之辰

つひの辰

指二万三千四百又指六斗七石半ありと云

○米米百八十七石六斗ありと云

六院一進。六三三進

六院一進。六院一進

六院一進。六一加下四

六院一進。六三三進

六院一進。六三三進

六院一進。六三三進

六院一進。六三三進

六院一進。六三三進

六院一進。六三三進

六院一進。六三三進

六院一進。六三三進

六院一進。六三三進

六院一進。六三三進

六院一進。六三三進

六院一進。六三三進

六院一進。六三三進

六院一進。六三三進

六院一進。六三三進

六院一進。六三三進

六院一進。六三三進

六院一進。六三三進

六院一進。六三三進

六院一進。六三三進

六院一進。六三三進

六院一進。六三三進

六院一進。六三三進

六之辰 貳万。又百七指六斗七石半ありと云

つひの辰

又六三三

一六六

三六十八

一六六

六六六

六七四十二

又六三十

二六十二

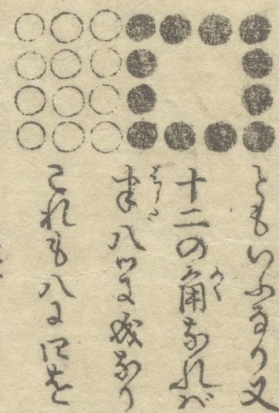
同安







十八とあるやうに又たのちとく  
あるまゝとて十二のち



うけく四八三十二と互に上十  
二入るは十四とあるやうに  
十二と十二入るは法あるやう  
十二と十二の縁とて果して  
とのひあるやうに

○儀移むへの算

移むへの儀十八儀上のより一儀  
数あるはとて三十三儀との

御又の八儀と

右とたまた

斤一方

一儀とて

九儀とあり一八と

九とけ合せ八七七十二儀と

これと二つあるは三十三儀と

とてとれは移むへのある

とあるべし

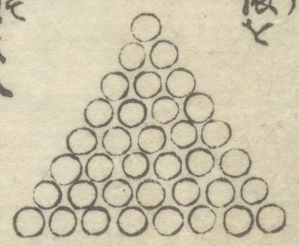
は外何儀までも移むへあるは

とて斤つと一儀とてうけ合せ

とて二つと一儀とて

たて八と十三儀とあり十三儀

十とてうけては百八十三儀と



# 九之段

ちうひる

振二万二千四百六十六石七斗八升九合と

九之段とて

九況一進

九況一進

九況一進。九一加下一

九況一進。九三加下三

九六加下六

九況一進。九一加下一

九六加下六

九三加下三

九一加下一

目安

九之段とて万三千七百七十四石二升三合

とて

一九九

二九十八

四九三六

七九六十三

一九九

七九六十三

三九二六

一九九

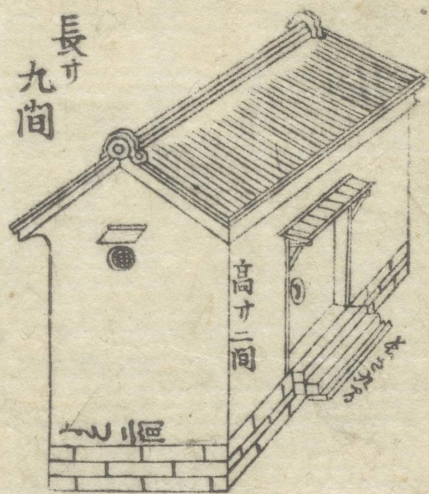
目安







蔵入俵を二積集



高サ二間横二間の蔵へは蔵入俵  
ふ小段入るといふ二千五百九十二俵入  
といふ法、高サ二間と横二間とをわかれ  
二二四坪と成りこれ小長サの九間とく  
まは四九三十六坪と成りこれは一坪小俵  
と入る積の七十二とわかれ式二千五百  
九十二俵入とあり又二坪と六十二俵と

入といふ法もなり此法より三千六坪  
をわかれ二千五百十俵とありなり  
右のれも蔵小より又積やうは  
よりてちがひなりといふも大うい  
かくのていふことあり

○俵はりの事

八八八八八八八八八八八八八八八八  
三坪づかんまゝと右の外めは積集  
外め八百廿五斗なりといふ  
は法いふ一石と九斗八升とを内三升  
列べ九斗七升と成りこれと右の八百  
五斗とをわかれ外め五斗なりといふ  
○四斗俵五千三百七十俵なり是を  
石小とくは法いふ一石と九斗八升とを  
二千五百八十八石と成りといふこれと

見一

銀百目と十六は割りとあふ積

リ	分	五	十	百	目	安	目

は法いふ一院進を五段とく三と成り上の方  
は法いふ五と目安の六と成り合せて又六十三と  
つくりいふ三とく  
は法いふ四と目安と二と成り上の方と目安  
の六と成り合せて二六十三とく  
は法いふ三と目安の六と成り合せて二六十三とく  
目安の六と成り合せて二六十三とく  
二六十三とく  
は法いふ二と目安の六と成り合せて二六十三とく  
は法いふ一と目安の六と成り合せて二六十三とく  
は法いふ一と目安の六と成り合せて二六十三とく

十六は割りとあふ積

リ	分	五	十	百	目	安	目

は法いふ一院進を五段とく三と成り上の方  
は法いふ五と目安の六と成り合せて又六十三と  
つくりいふ三とく  
は法いふ四と目安と二と成り上の方と目安  
の六と成り合せて二六十三とく  
は法いふ三と目安の六と成り合せて二六十三とく  
目安の六と成り合せて二六十三とく  
二六十三とく  
は法いふ二と目安の六と成り合せて二六十三とく  
は法いふ一と目安の六と成り合せて二六十三とく  
は法いふ一と目安の六と成り合せて二六十三とく



三

善男子十九年以百月也

而目とこれ限六也又而目志之

屏風と通と重積の車

卷四

紙

二

Two panels of a botanical illustration from a Chinese manuscript. The left panel shows a plant with a thick, segmented stem and several branches with small, dark, pointed leaves. The right panel shows a similar plant with a more slender stem and branches. Both panels are labeled with Chinese characters and measurements. The left panel is labeled '五尺三寸' (Five feet three inches) and '竹' (Bamboo). The right panel is labeled '五尺三寸' (Five feet three inches) and '竹' (Bamboo). The panels are separated by a vertical line, and there are additional handwritten notes in Chinese characters at the bottom of each panel.

五ノム

二百廿壹石

二十六は割人と男の時

は五三とぬきつう上の五と自家のたよりを合せし  
**五三三**とのすくは三と訂ぐ

は亦六つ或上の八つ用安のえどを合せて六十四八  
故の物とふと或つては三と或  
扱は二と二天惟五とのすく一と五亦つるまへ

見二安次船九二と云てモふつナク二を云ふ也  
 扱は九と周安の六とを合せし六九或十段次の九と云て  
 いふれぬ也一候一倍二よりして九の間ありてより候へ  
 ニと云ふれぬ也又ば八と候つとの九と云ふ候也

二十六 刻ハ八石又斗ヅとぬえ

是と又かろふ由ハ

一はさて上の五と同数の六と見ゆべ  
とゆづくは六く三十入るべ

一五と同安の二とを合せし **二五** 十よのゆゑ  
 スレニ又つくる。○扱又は事として上の八と同安の  
 内とを合せし **六八** 四八よのゆゑは、四十八  
 のなるへ八をよりし

一八と同安の二とを合せし、**二十八**とす。つづ  
 一八をすゝつゝ、一八とくゝの二を合せし、**二**  
 月との二をすゝると數す

九	六			百	十	石			
				四百					

A diagram of a 16-point compass rose. The cardinal directions are labeled: 北 (North) at the top, 南 (South) at the bottom, 東 (East) on the left, and 西 (West) on the right. The trigrams are labeled: 坎 (Kan) at the top-left, 離 (Li) at the top-right, 震 (Zhen) at the bottom-left, and 兌 (Dui) at the bottom-right. The numbers 1 through 16 are placed around the perimeter, corresponding to the 16 points of the compass.



算方新書 卷之四 算術 算方新書 卷之四 算術

二枚屏風の紙中の長サ又三寸  
横式又六寸とある方合せて六寸  
中の押張のすうのふく小三寸  
その合と金つり一三寸を七十  
六枚目分り入るを多し二寸を  
四寸と八寸と成せ八寸三寸と  
かうれば百廿四坪と又上の長サと  
下の二寸と合して六寸と成るとその  
列のすう二八二寸とある方合せて八寸  
それと六寸と合すれば二百六十坪と成  
るはうを六寸八十八坪と成ると  
三寸と合して六寸と成ると九坪と  
成ると六寸八十八坪と成ると  
是れを六寸八十八坪と成ると

同六枚屏風の算



六枚屏風の長サ六尺と成るを寸  
ちうの長サの御物と用ひ中の後の  
とあると勘合して三寸と成る  
はれとつてつて

見三

式や四百四拾四かを  
三百七十六とつてとるは

百	十	一	目安	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

① は百と成て百の長と目安の六と合せて  
五十六と成る  
② は百と成て百の長と目安の七と合せて  
五十七と成る  
③ は百と成て百の長と目安の八と合せて  
五十八と成る  
④ は百と成て百の長と目安の九と合せて  
五十九と成る  
⑤ は百と成て百の長と目安の十と合せて  
六十と成る  
⑥ は百と成て百の長と目安の十一と合せて  
六十一と成る  
⑦ は百と成て百の長と目安の十二と合せて  
六十二と成る  
⑧ は百と成て百の長と目安の十三と合せて  
六十三と成る  
⑨ は百と成て百の長と目安の十四と合せて  
六十四と成る  
⑩ は百と成て百の長と目安の十五と合せて  
六十五と成る  
⑪ は百と成て百の長と目安の十六と合せて  
六十六と成る  
⑫ は百と成て百の長と目安の十七と合せて  
六十七と成る  
⑬ は百と成て百の長と目安の十八と合せて  
六十八と成る  
⑭ は百と成て百の長と目安の十九と合せて  
六十九と成る  
⑮ は百と成て百の長と目安の二十と合せて  
七十と成る

三百七十六

六が又分つて成る

是れを又分つて

百	十	一	目安	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

① は百と成て百の長と目安の六と合せて  
五十六と成る  
② は百と成て百の長と目安の七と合せて  
五十七と成る  
③ は百と成て百の長と目安の八と合せて  
五十八と成る  
④ は百と成て百の長と目安の九と合せて  
五十九と成る  
⑤ は百と成て百の長と目安の十と合せて  
六十と成る  
⑥ は百と成て百の長と目安の十一と合せて  
六十一と成る  
⑦ は百と成て百の長と目安の十二と合せて  
六十二と成る  
⑧ は百と成て百の長と目安の十三と合せて  
六十三と成る  
⑨ は百と成て百の長と目安の十四と合せて  
六十四と成る  
⑩ は百と成て百の長と目安の十五と合せて  
六十五と成る  
⑪ は百と成て百の長と目安の十六と合せて  
六十六と成る  
⑫ は百と成て百の長と目安の十七と合せて  
六十七と成る  
⑬ は百と成て百の長と目安の十八と合せて  
六十八と成る  
⑭ は百と成て百の長と目安の十九と合せて  
六十九と成る  
⑮ は百と成て百の長と目安の二十と合せて  
七十と成る







かけく割る竹糸  
せん二つよりいんとあつて五を  
うけよう

たふは五千六百七十八石と二つは  
うらまきよりみとかつた

二千八百九石とあつて

石	五	八	四	十
百	五	七	三	十
千	五	五	二	五

石	五	八	四	十
百	五	七	三	十
千	五	五	二	五

二つより  
みでうけ

よきので  
二つより

# 見五

ちうへん  
三や八百七拾圓と又百十は

五	十	百	千	目安
五	十	百	千	目安

- ① 案て上のけのちと目安のてをちて「五五」より又この  
目安のちてを食せ「五五」より
- ② けのちのり「五五」よりてあつて「五五」より  
けのちのり「五五」より
- ③ けのちのり「五五」よりてあつて「五五」より  
けのちのり「五五」より
- ④ けのちのり「五五」よりてあつて「五五」より  
けのちのり「五五」より
- ⑤ けのちのり「五五」よりてあつて「五五」より  
けのちのり「五五」より

五百十は七はふ分づとあつて

是を又かつた

又五つ割る二とけうけよう  
たふへ限三や或百十二石と  
五は割る二とけうけよう  
かられば六百十二石とあつて

金	二	二	二	二
百	二	二	二	二
千	二	二	二	二
万	二	二	二	二

金	二	二	二	二
百	二	二	二	二
千	二	二	二	二
万	二	二	二	二

五つ割る二  
二とけうけ

二とけうけ  
五つ割る二

三や或百  
十二石

五割六百十二石  
四百六石

五	十	百	千	目安
五	十	百	千	目安

- ① けのちのり「五五」よりてあつて「五五」より  
けのちのり「五五」より
- ② けのちのり「五五」よりてあつて「五五」より  
けのちのり「五五」より
- ③ けのちのり「五五」よりてあつて「五五」より  
けのちのり「五五」より
- ④ けのちのり「五五」よりてあつて「五五」より  
けのちのり「五五」より
- ⑤ けのちのり「五五」よりてあつて「五五」より  
けのちのり「五五」より

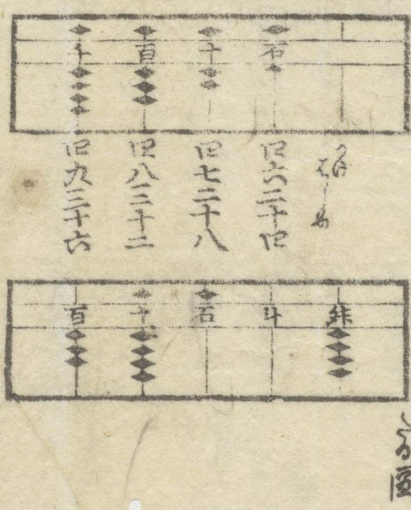


又廿五刻ハ

トより何とけて

たへ大直九千八百七拾六石と  
廿五刻三百九十五石に於て

廿五刻と  
何とけり  
ハ五より  
る圖



又何とけり  
トよりハを  
る

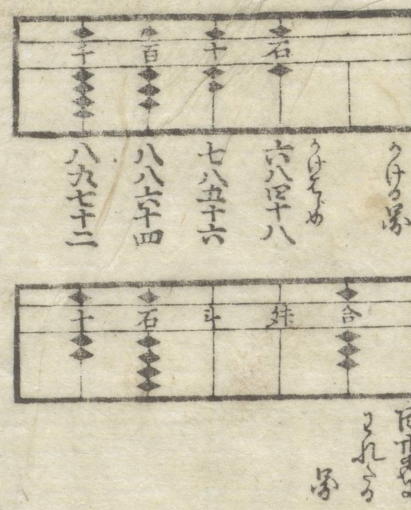
見六

六千四百四十石と  
六百七十八よりけり



ハ千と上の五と同安の八と見あへり  
ハ百と上の五と同安の七と見あへり  
ハ十と上の五と同安の六と見あへり  
ハ一と上の五と同安の五と見あへり  
ハ千と上の五と同安の八と見あへり  
ハ百と上の五と同安の七と見あへり  
ハ十と上の五と同安の六と見あへり  
ハ一と上の五と同安の五と見あへり  
ハ千と上の五と同安の八と見あへり  
ハ百と上の五と同安の七と見あへり  
ハ十と上の五と同安の六と見あへり  
ハ一と上の五と同安の五と見あへり

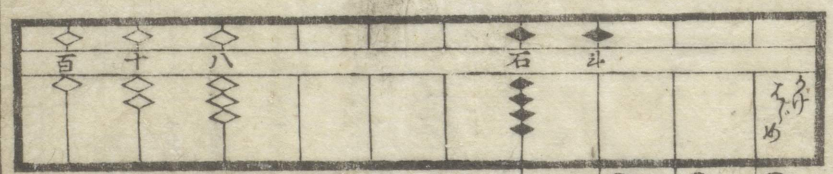
たへ大直九千八百七拾六石と  
何とけり  
七十九石八合のり



又何とけり  
トよりハを  
る

二をからうハ  
五をからうハ  
十をからうハ  
百をからうハ

六百七十八刻ハ  
九石五斗と見あへり

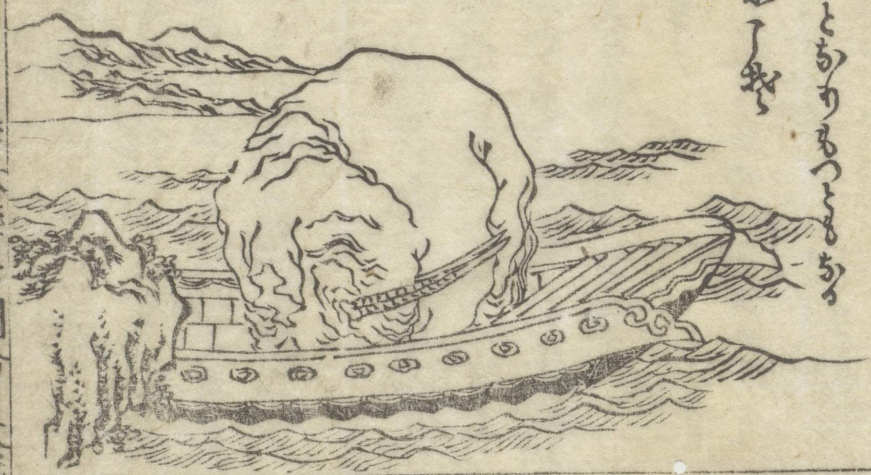


ハ千と上の五と同安の八と見あへり  
ハ百と上の五と同安の七と見あへり  
ハ十と上の五と同安の六と見あへり  
ハ一と上の五と同安の五と見あへり  
ハ千と上の五と同安の八と見あへり  
ハ百と上の五と同安の七と見あへり  
ハ十と上の五と同安の六と見あへり  
ハ一と上の五と同安の五と見あへり  
ハ千と上の五と同安の八と見あへり  
ハ百と上の五と同安の七と見あへり  
ハ十と上の五と同安の六と見あへり  
ハ一と上の五と同安の五と見あへり



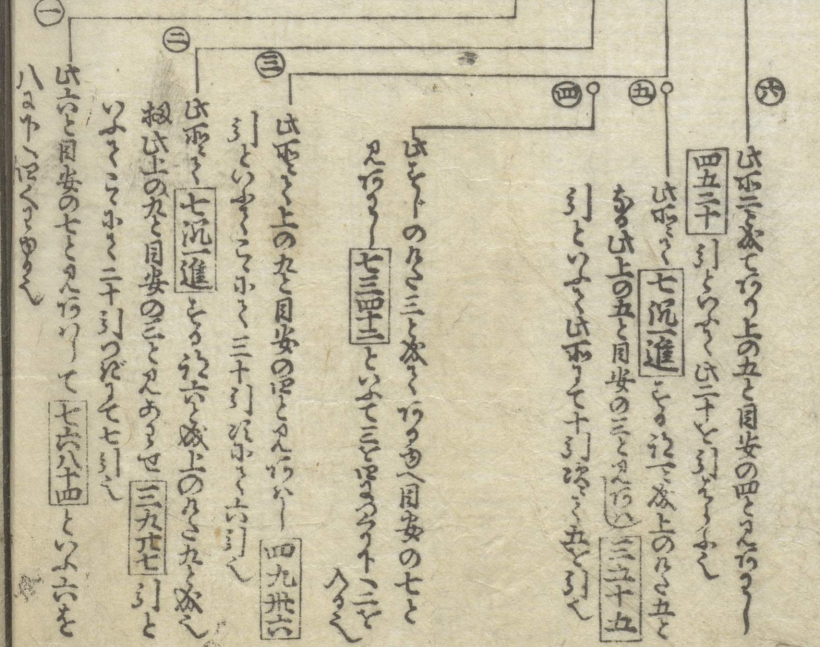
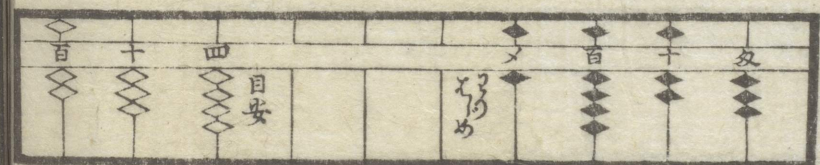
○唐の太常博士李嶺頌が悦み文趾  
潮循の猪鬃は象の如く出ると云  
又明の文林郎李時珍も文廣雲  
南の及び西域の猪鬃小出て野象  
群と云に灰白の二色なりと云  
又いづく象の大なるもの身のふけ  
數丈高されしかかみ六七尺す  
恰好も象の如くと云なり  
叔母の重さと知てしむ漢の  
武帝の沛子蒼舒の目象は重  
目と云ふ人と歎せむ象と云ふのせ  
う水小く舟の水へはり  
なり云々なりと云なり  
其の又物をつきて云々の  
あやで船をつけ文積なり云と

ちげて因方とくけくえれ<sup>めん</sup>象の  
重さ<sup>おも</sup>いうほどちつとひそとまる  
べーとちりもつともちり  
とゆ<sup>い</sup>ち<sup>ち</sup>



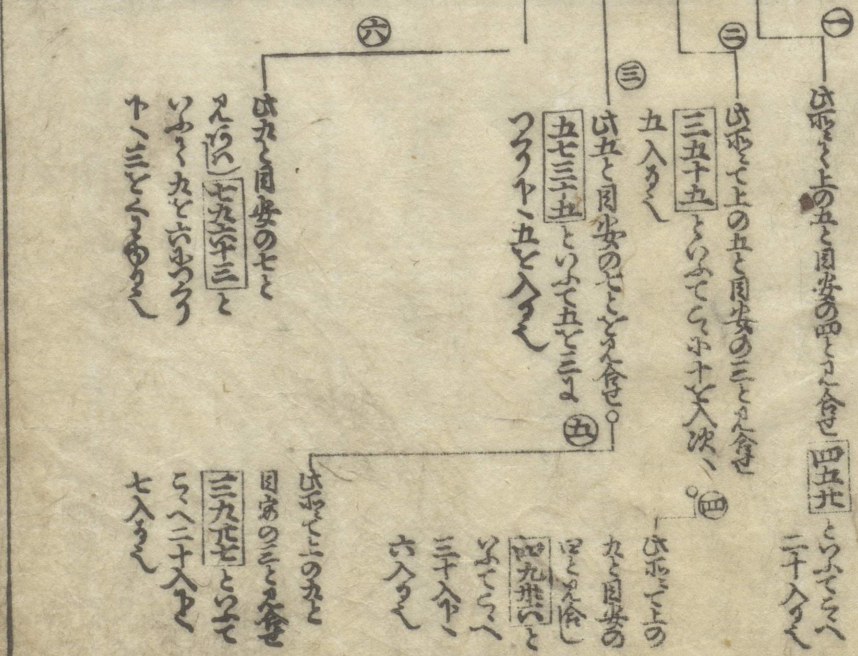
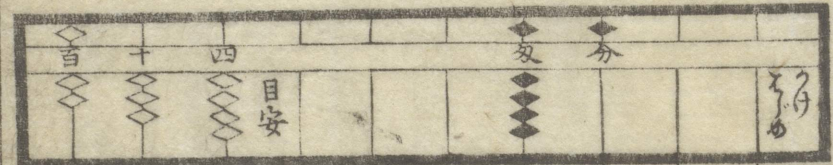
見七

ろゝいへ狼  
六廿九百七拾三文を  
七百三十文は  
ろゝいへ



七百三十四ツレ割ハ 九匁五分ヅト云ク

是を又かけるゝさへ













諸色竹目大畧

日本目 式百卒目

白目  
月  
式百卅目

唐  
目  
內  
百六十目

沉香月貳百拾目

當飯地黄川芎五種

黄蓮薑陸

辰砂光明朱丹

此三種ハモ兩方ゾ

藥 壹兩ハ 四匁四分の物之

唐物類  
を付  
百六十目

きうれども責笑の竹目  
とまき

多<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>つ<sup>ニ</sup>ち<sup>ニ</sup>又<sup>ニ</sup>思<sup>ニ</sup>ふ<sup>ニ</sup>よう<sup>ニ</sup>て

遠いなり

和藥類 同 貳百卅四

是もろゝのまゝに  
武田六指目もろゝの八指目もろゝ

又正より遠いなり

實綿同

河の周多くハ三石園を竹

これを云の目とて、他國とて  
多く而六情同あり感<sup>そ</sup>き方へみ

六

茶  
作  
山  
三  
百  
回

挽柔ハ武反用ナリ

周草司 百六拾四

他國より可なりて百八拾圓

但し、（？）とて同なり

松尊 同 全下又抄

紅花  
同  
百

A black and white woodblock illustration depicting a scene of weighing goods in a traditional Japanese setting. Three men are engaged in the task. The man in the center, wearing a dark vest and a patterned skirt, holds a long beam scale horizontally. To his left, another man in a light-colored kimono and dark boots holds a basket, preparing to weigh its contents. To the right, a third man in a light-colored kimono and dark boots stands observing. The background features a stone wall and stacks of barrels and boxes, suggesting a warehouse or market area. The style is characteristic of Edo-period Japanese book illustrations.

○金銀兩替の筭

○金八十七兩<sup>りつ</sup>と<sup>り</sup>兒<sup>こ</sup>寺<sup>てら</sup>兩<sup>りつ</sup>付<sup>つ</sup>銀<sup>ぎん</sup>六<sup>む</sup>指<sup>さし</sup>口<sup>くち</sup>父<sup>ちち</sup>之<sup>の</sup>お<sup>お</sup>場<sup>ば</sup>

中々なる小判は銀何程なるをといふ

張五廿五百六拾八

是の夜、小刺八十七兩とを以て先小お場の六十両と

か  
れ  
ば  
彼  
の  
言  
を  
き  
く

○今七八兩三歩の時を雨の代報と推定すとのおぼ

小一七有金小福何程何子子中子

根去丹七百粒（一） 凡患此症者

是の廿八西三歩とをぬれば三歩石をぬく

七五とあるも、たゞ、廿八、西、廿五

ハ三書を以て刻む七五と云ふ上

金算用ハ一をさう兩とさうゆえに二歩ハ五く



















本を以ての神を以ての神と云ふは、いふくある  
 事あるに、その神の神の神、又かたの神の神、  
 と云ふは、その神の神、又かたの神の神、と云ふ  
 ひたひたの神、又かたの神の神、と云ふ、神の神

ちの男が女大い小兒とある事なほなり。いづぢうやと  
らうぬか、あまが、だうぢう、れを病にひていれぬ  
たふしはあまひありそのうちすめ、あまもくそへんこ  
まいとよくけさうゆみんとその音助とある也

ちうやうのまへに、いひおとすへりあり。いふに、さうこそ  
あつて、いふ大乗のうもきく。又、いふ大乗のうもきく。いづれ  
ありのなるやうか。でも、いふ大乗のうもきく。いづれ  
さうのうもきく。又、いふ大乗のうもきく。いづれ

[illegible]

賣弘取次所追々諸國お弘マキ官印鑑見之るは弘の上座求可被下

ちやうどあつてゐるういで、さぬの  
 ぢいのはまひをききのなれなるすゝめ、ひたひた  
 みどうたわふ。ばなは三三三りみ。べんのかさい  
 そろ。あひいぞるをせむか。げぞとくを思ひけし

[illegible]

それゆゑ、そのまゝに、あつたまゝのやうに、たゞ、食う  
ぬのやうな、その眞つたな、食う、このやうに、と、お  
けび、な、ち、ま、り、ち、ま、り、の、ま、い、ん、を、け、い、ま、の、  
と、お、め、れ、が、ま、い、ん、の、ま、い、ん、と、ま、い、ん、の、ま、い、ん、

さんぜんてん<sup>てん</sup>後<sup>ご</sup>の<sup>ご</sup>は<sup>は</sup>さう<sup>さう</sup>と<sup>と</sup>用<sup>よう</sup>ひ<sup>ひ</sup>が<sup>が</sup>さ<sup>さ</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>り<sup>り</sup>と  
 とい<sup>い</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>小<sup>こ</sup>思<sup>おも</sup>は<sup>は</sup>たい<sup>たい</sup>く<sup>く</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>れ<sup>れ</sup>ひ<sup>ひ</sup>さ<sup>さ</sup>な<sup>な</sup>  
 ち<sup>ち</sup>う<sup>う</sup>さ<sup>さ</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>へ<sup>へ</sup>の<sup>の</sup>小<sup>こ</sup>思<sup>おも</sup>は<sup>は</sup>い<sup>い</sup>づ<sup>づ</sup>な<sup>な</sup>は<sup>は</sup>用<sup>よう</sup>ひ<sup>ひ</sup>と<sup>と</sup>え<sup>え</sup>極<sup>ごく</sup>殊<sup>しゆ</sup>  
 ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>用<sup>よう</sup>ひ<sup>ひ</sup>が<sup>が</sup>さ<sup>さ</sup>ん<sup>ん</sup>で<sup>で</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>れ<sup>れ</sup>ひ<sup>ひ</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>小<sup>こ</sup>思<sup>おも</sup>は<sup>は</sup>

十二月異名

十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	正月
嘉平	周正	大章	暮商	挂秋	新涼	鶉火	盛衰	新麥	鶯時	中和	芳春
窮陰	冰壯	陽止	菊秋	西影	蘭秋	亢陽	揜天	朱明	五陽	殷春	青陽
歲杪	正冬	始冰	天雩	豆雨	流火	晚夏	南訛	清和	季春	夾鐘	王春

攝府 曉鐘成纂校 至書  
天保二辛卯年三月發

京  
吉野屋仁兵衛  
伏見屋半三郎

山城屋估兵衛

江戸  
丁子屋平兵衛

永樂屋東四郎  
松屋善兵衛

堀  
住古屋彌三郎

大陟  
檜皮屋  
內屋  
河內佐  
七助

河內屋長



丙天保神

正月吉

本郷  
吉  
月  
九  
門  
人

五  
元  
庵  
内



